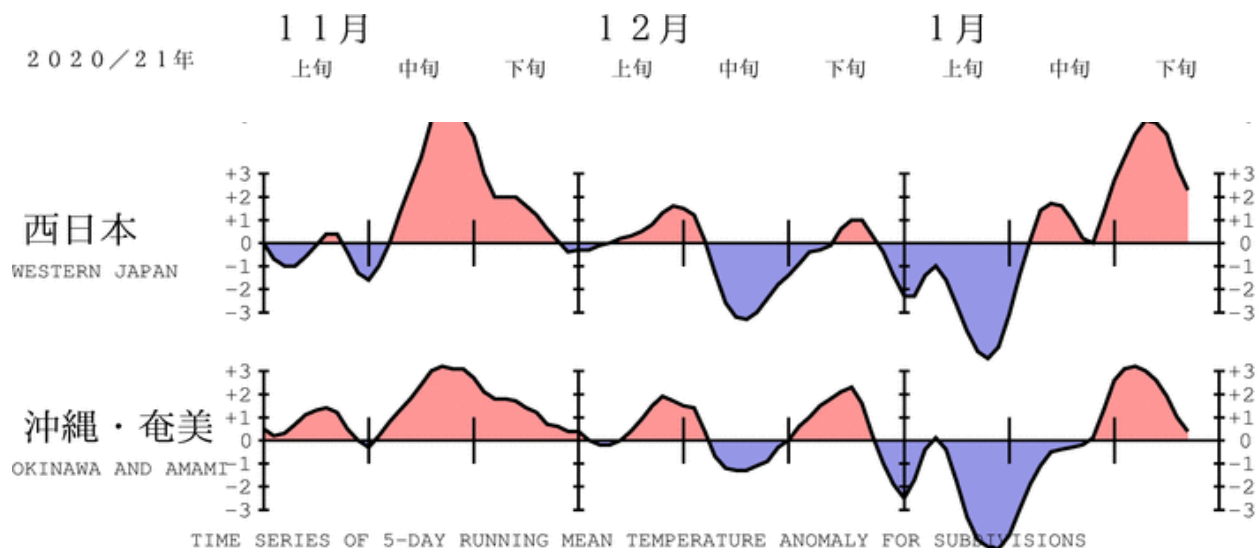


新型コロナ（COVID-19）の感染拡大下に明けた今年、近畿圏でも「非常事態宣言」が発令されるに至りました。この影響でシニア自然大学関係等の各種行事は全て中止、ステイホームを余儀なくされています。こんな中で「胃の調子がおかしい？」と出かけた近所のかかりつけのドクターの診断は「慢性胃炎」。最近、同様な症状を訴え来診される人が増えているとのこと。原因はステイホーム・・・所謂コロナフレイル症状：引き籠りによる運動不足。幸い当方の症状は投薬で平癒。こんなこともあり以前よりは歩数を延ばした近所歩きを続けてきています。加えて、ボケ防止の目的で本年もサクラだよりを発行して行こうかと考えているところです。

本報では、既に開花が始まっている沖縄・奄美でのヒカンザクラの開花情報、はやくも発表された本年度のソメイヨシノの開花日予想（第2回目）、正月の2020年サクラだより別報2で記載した秋咲きのサクラの現況など記述しておきます。

1. 今年の冬季の気温の経過。

1-1. 西日本・南西諸島の気温（平年差）



両地域とも同じような傾向。西日本の気温は11月中旬から12月上旬までは平年値を大幅に上回ったが12月中旬から1月中旬にかけて平年を大幅に下回り、1月下旬からは大幅に上回る等寒暖の差の大きな経過となって来ています。なお、1月26日に気象庁が発表した向う3ヶ月間の気象予報では、西日本太平洋側で、

- ・2月近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は平年より高い確率40%、平年並み40%、平年より低い20%

- ・3月近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は平年より高い確率40%、平年並み30%、平年より低い30%

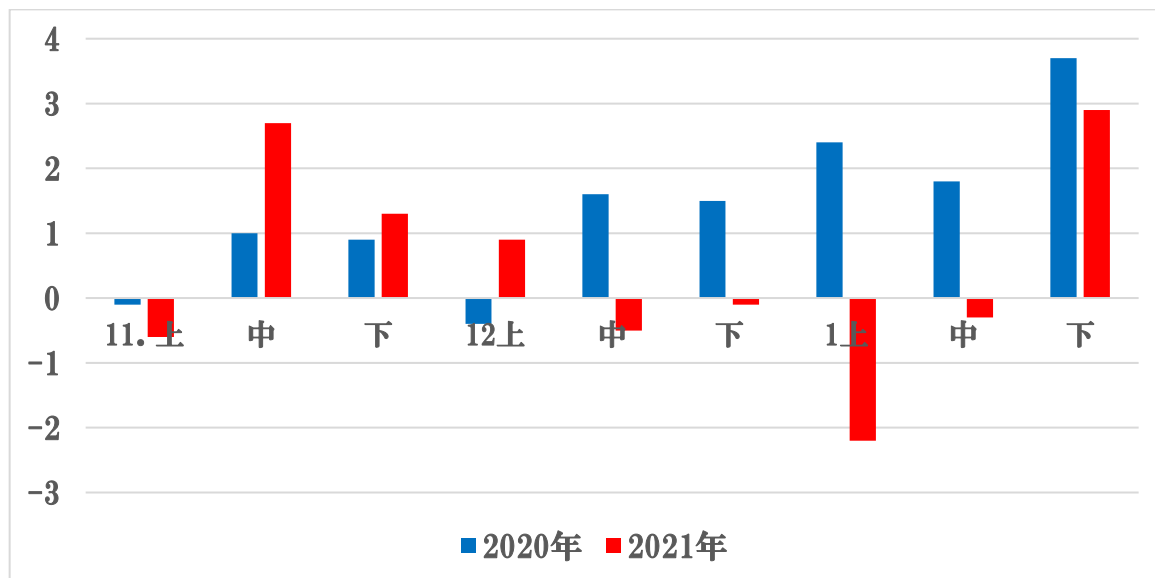
- ・4月天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は平年より高い確率40%、平年並み30%、平年より低い30%

降水量は 期間を通じて平年並みとなっています。前月予報の、2, 3月は寒いから平年並み~暖冬気味と変わってきています。

1-2. 大阪地区の気温の推移

大阪地域の 11 月、12 月、1 月の気温経過を平年値との差異でみて見ました。また、昨年度とも比較。



なお、どんな意味を持つかは別にして、この間の平年差との積算温度は 2020 年度で 1 2 3℃・Day、本年度は 3 6℃・Day です。花芽の休眠打破の時期に関係するかも知れないですね？（後述）

2. サクラ「ヒカンザクラ」の開花情報

本年始めの別報 3. でお知らせしたように気象庁では従来報告されて来た「生物季節観察」の対象を大幅に縮小し、6 種 9 項目となりました。幸い、「サクラ」に関しては各地での開花日、満開日の観測が残されることになりました。既に、奄美・沖縄地区の観測標準種である「ヒカンザクラ」の開花日が報告されて来ていますので記しておきます。

地域	平年	昨年	今年
名瀬（奄美）	1 月 19 日	1 月 23 日	1 月 25 日
沖 縄	1 月 18 日	1 月 6 日	1 月 4 日
宮古島	1 月 16 日	2 月 7 日	1 月 16 日
石垣島	1 月 16 日	1 月 29 日	1 月 27 日

全地域で 1 月末時点での「満開」の報告はありません。昨年度は宮古島、石垣島では「満開」には至りませんでした。最近までは、この地域のサクラ開花は「休眠打破」が律速であり、概ね北から南に進むとされてきましたが……。温暖化の影響かばらばらですね。

なお、私の散歩・観察エリアにある芦屋川河岸の公園の「ヒカンザクラ」は花芽が少し膨らみ、頭がピンクを帯びて来た状況です。（昨年度の開花は 2 月 10 日頃でした。）

3. 今年のサクラ（ソメイヨシノ）の開花日の予想

日本気象株式会社は、1 月 28 日に 2021 年第 2 回目の桜の開花・満開予想を以下のように発表しました。

*2021 年の桜の開花傾向について

全国的に平年並みか平年より早い開花、名古屋で 3 月 20 日に開花前線がスタートし、3 月 21 日には東

京、福岡など6地点が続き、3月末までに東日本・西日本で続々と開花し始める予想（図参照）

今シーズンは晩秋の高温の影響で全国的に休眠打破が遅れるものの、休眠打破後は平年並みか平年より高めの気温で生長が早まるため、最終的には休眠打破の遅れを取り戻す見込みです。全国的に平年並みか平年より早い開花となるでしょう。

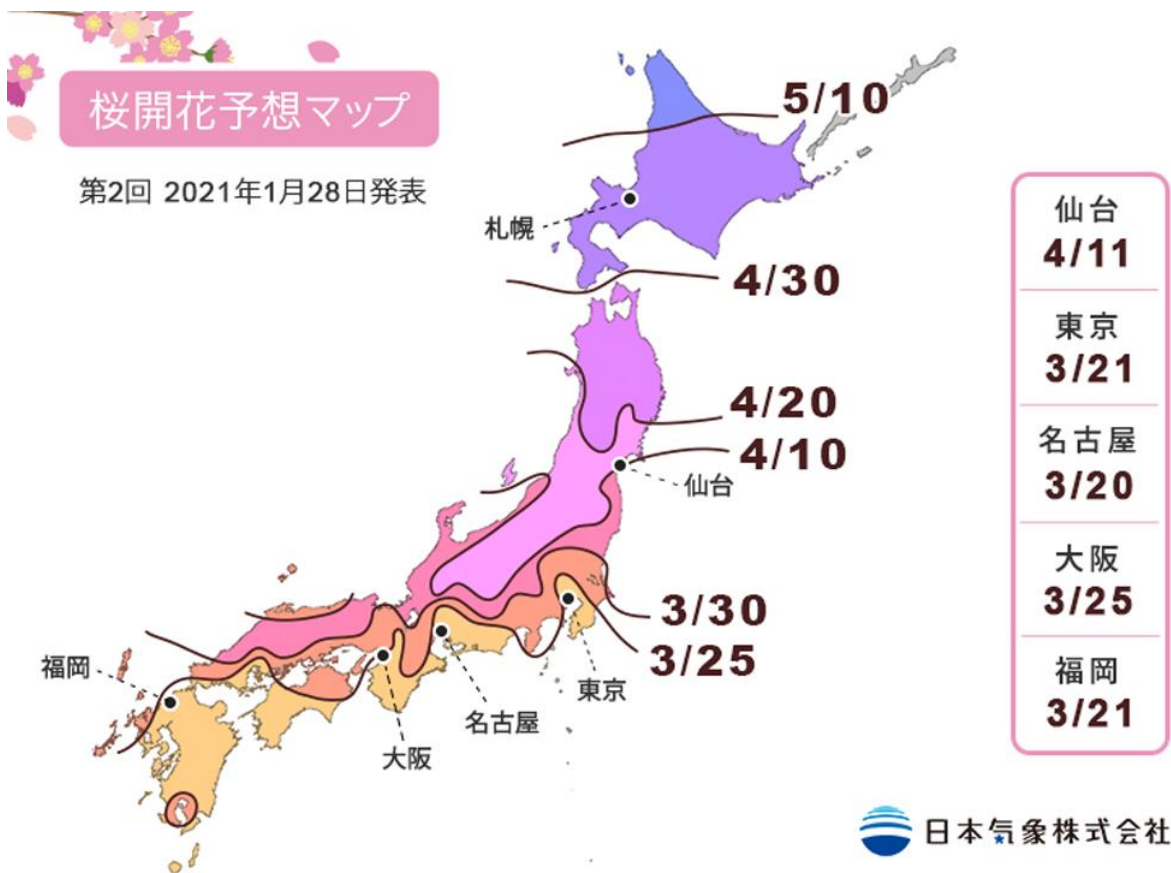
前回の発表と比べて2月から3月にかけての気温が高くなる予想に変わったため、その影響で東日本・西日本の多くの地点で開花日が数日早まっています。今シーズンは名古屋で3月20日に開花前線がスタートし、3月21日には東京、福岡など6地点が続き、3月末までに東日本・西日本で続々と開花し始める予想となっています。

[東日本・西日本]

10月は平年並み、11月は平年よりかなり高め、12月は平年並みか平年より低め、1月は平年並みか平年より高めの気温でした。11月の高温の影響で休眠打破の時期は平年より数日から10日程度遅れています。2月から3月にかけては平年より高めの気温が予想され、開花時期は、平年並みか平年より早いでしょう。

[北日本]

10月から11月にかけては平年より高め、12月から1月にかけては平年より低めの気温でした。秋に高温だったため休眠打破の時期は平年より数日～10日程度遅れましたが、既に休眠打破を終えた見込みです。2月から3月にかけては平年より高め、4月は平年並みの気温が予想されています。開花時期は平年並みでしょう。



*開花予想日：大阪以外の近畿各地の開花予想日は・・・。

京都 3月23日、神戸 3月26日、奈良 3月25日、和歌山 3月22日、彦根 3月28日。

＊大阪地区における休眠打破（始まる）時期の推定、

大阪地区における平年次のサクラ開花日は 3月28日、休眠打破から開花までに必要とされる日平均温度の積算値、 $400^{\circ}\text{C}\cdot\text{Day}$ を適用して平年時の旬気温を用いて休眠打破日を算出すると・・・。

3月寄与分は $10.8 \times 7 + 9.5 \times 10 + 7.9 \times 10 = 250^{\circ}\text{C}\cdot\text{Day}$

2月寄与分は $7.0 \times 8 + 6.5 \times 10 + 5.7 \times 10 = 168^{\circ}\text{C}\cdot\text{Day}$ であり $18^{\circ}\text{C}\cdot\text{Day}$ 分過剰となる。これは2月上旬の気温 (5.7°C) の3日分に相当。 平年時で2月3, 4日が休眠打破のはじまる時期と推定されます。因みに昨年度は別報1で既報のように開花日からの逆算で2月11日と推定されました。なお、1－2で記述した今期の11～1月の気温の積算値は12～1月では±0、11月を考慮すると $34^{\circ}\text{C}\cdot\text{Day}$ 高め、これは2月上旬の気温の5、6日分に相当。従って下線のような表現となったのかな？

4. 秋咲きサクラの現状

秋～冬に咲くサクラに付いては正月の別報3. にまとめました。私の住居附近で見られる 種は「ジュウガツザクラ」と「コブクザクラ」の2種です気付いたのは12月に入ってから、今期は1－1、に表示したように11月中・下旬異常な高温で 開花が遅れ、その後の低温で花もちがよいようである。また、1月下旬の3月並みという気温変化でさらに開花が進んだようです。「ジュウガツザクラ」は1～2分咲きのまま、「コブクザクラ」は一時花が見られなくなりましたが、1月中旬以降の暖気で再び花が見られるようになりました。なぜ、こんなに長い間、開花が見られるのでしょうか？気候の所為もありますが、秋咲きのサクラは、ソメイヨシノやオオシマザクラのような春咲きのサクラと異なり花弁が散ることはありません。花後も樹に残って萎み、枯れて行くのです。冬季で気温が低く花の寿命が長いこと、散らないため今だに花が見られるのでしょう。 写真左は芦屋川堤の公園で新たに見つけたジュウガツザクラの個体・・・3分咲き程度（付近に3本植栽）。右は再び花を付けたコブクザクラ です。

＊参考文献:添付書面は現在の高等学校・生物Ⅰの教科書の内「植物の一生とホルモン」をまとめたもの、芽の休眠、休眠打破等は現在 このように教育されています。ご興味ある方は御覧ください。 以上

